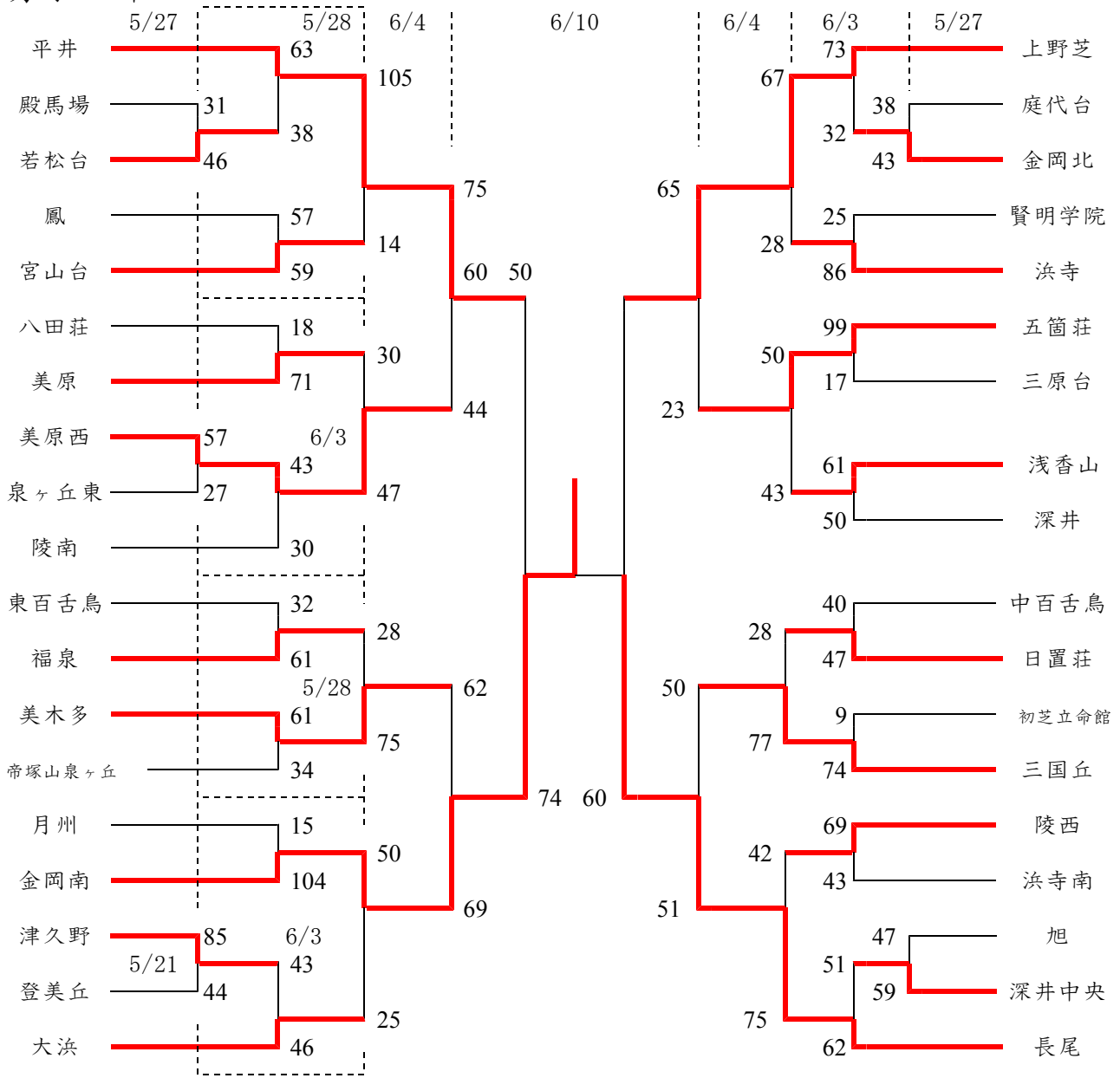


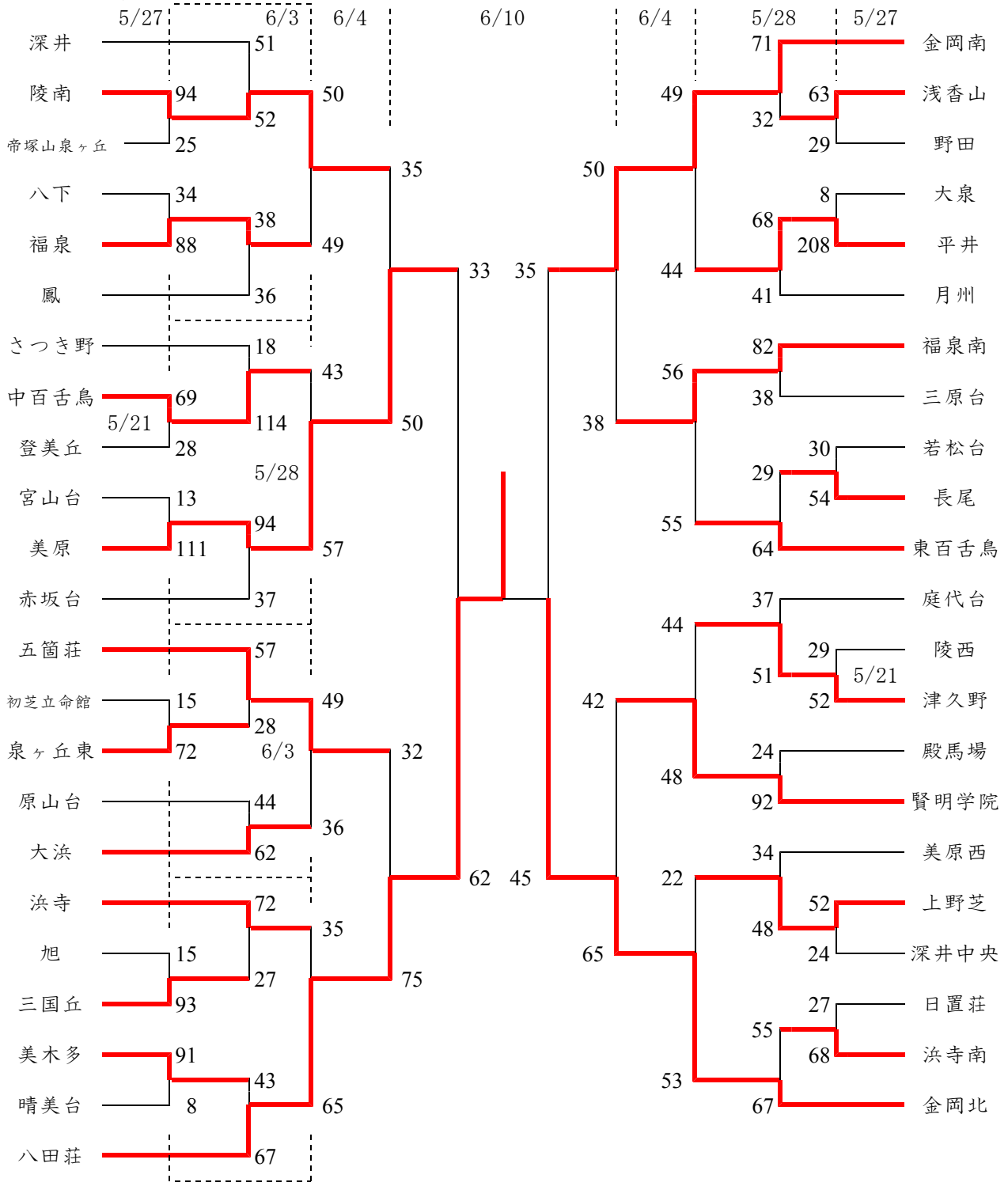
# 2017年度 堺市種目別優勝大会

## 男子の部



		決勝		
金岡南	59	-	52	長尾
	16	10	12	
	12	20	13	
	14	30	8	
	17	40	19	

女子の部



決勝

八田荘	5 1	-	4 7	金岡北
	1 3	1Q	1 6	
	1 0	2Q	8	
	9	3Q	1 6	
	1 9	4Q	7	

## 男子決勝戦評

長尾④⑤⑥⑧⑪ 金岡南④⑥⑦⑬⑭でスタート。

泉北春季大会の決勝と同じカードとなった今大会の決勝戦、金岡南は高さを生かしリバウンドを確実に取り、⑥のインサイドプレイを中心に得点を重ねていく。一方、長尾は強気のドライブやフリースロー、⑤の3Pで得点を重ねる。長尾は金岡南の高さに対し、インサイドアタックやリバウンドのシーンでがんばりを見せる。長尾は終了間際に⑤が3Pを決める。16-12の金岡南リードで1Pを終える。

2P開始直後、長尾⑤がバスカンを決め、その差を1点とする。長尾はオールコートマンツーマンでプレッシャーをかける。思うようなプレイをすることができず金岡南はタイムアウトをとる。タイムアウト後、落ち着きを取り戻したように見えた金岡南であったが、ターンオーバーが増えだし、長尾は⑤の3Pが連続で決まり、2P中盤で同点となる。金岡南のチームファウルが4つとなったところで長尾はタイムアウトを請求する。タイムアウト後、長尾⑧がフリースローを2本決め、ついに逆転するが、金岡南は④の3Pや⑥の速攻で決め返す。ここから両者激しい攻め合いを見せる。28-25の金岡南がリードで前半を終える。

3Pが始まって、長尾はディフェンスのプレッシャーを緩めない。足が止まりだした金岡南に対し、長尾は早い展開に持ち込み流れをつかみかけるが、金岡南は⑭の3Pや⑥のリバウンドシュートを決め、流れを譲らない。3P終盤は、金岡南が確実に点を重ね42-33と金岡南が9点リードつけ、最終ピリオドを迎える。

4Pが始まり、お互いになかなか流れを引き寄せることができないが、長尾⑤のドライブが連続で決まる。しかし、ここから金岡南⑥の得点が止まらない。フリースローやミドル、ゴール下のシュートを次々と決め、残り2分で13点差となると、長尾はたまたまタイムアウト。オールコートマンツーマンで一気にプレッシャーをかけ、バックコートでボールを奪いその差を7点まで縮めると、残り1分で次は金岡南がタイムアウト。その後も、変わらずプレッシャーディフェンスを続ける長尾であったが終始リバウンドを制した金岡南が59-52で公式戦、初優勝を飾った。(遠藤、近藤)

## 女子決勝戦評

八田荘④⑤⑥⑫⑬のハーフマンツーマン、金岡北④⑤⑥⑨⑩のオールマンツーマンでスタート。

八田荘⑥のパスカットから速攻のシュートでゲームが始まる。八田荘は⑫の外からのシュートや④のポストプレイで得点を重ねていく。一方、金岡北は⑥の外からのシュートや⑨のドライブ、オフェンスリバウンド、ドライブからの合わせで得点を重ねる。しかし、お互いパスミスが目立ち流れをつかめないまま16-13で金岡北が3点リードで1Pを終える。

2Pは、金岡北が積極的にオフェンスリバウンドを取りにいき、チャンスを増やす。しかしシュートが入らずに八田荘がリバウンドからアウトナンバーを作り、連続得点で逆転する。金岡北は④のドライブからのジャンプシュートで同点、さらに3Pを決める。2P終了間際、パスカットから⑥がジャンプシュートを決め、24-23で金岡北が1点リードで前半を終える。

3P序盤、お互いに得点を重ねていくが、徐々に金岡北の粘りあるディフェンスからリズムを生み出しカットから⑤の速攻、④や⑥の3P、⑤のオフェンスリバウンドからシュートを決め40-32と金岡北が8点にリードを広げる

4P、金岡北のパスミスを八田荘⑫が速攻で決める。ここから八田荘が怒濤の攻撃で一気に16得点を連続で取り、逆にリードを8点に広げ、完全にペースをつかむ。金岡北も⑨のリバウンドからのシュートや⑥の3Pで応戦するも届かず、51-47で八田荘が優勝を決めた。(額原、花内)